

# 令和5年度指標モニタリング (1月末時点)

## 【評価基準】

指標ごとに、下記の区分により4段階で評価する。

評価	区分	評価の考え方
◎	計画どおり概ね順調である。	計画の達成に向けた、具体的成果がある。又は目標を達成した。
○	ほぼ順調である。	計画に対して具体的に取組んでおり、一定の成果が認められる。
△	やや遅れている。	計画に対する取組はあるものの、まだ成果に現れていない。取組が不十分。
×	かなり遅れている。	計画に対して取組が行われているとは言えない。消極的。

# 指標モニタリング【広島病院】

モニタリング指標		R5 目標	取組内容 (1月末まで)	結果	自己評価	今後の取組・状況説明	
				(基準進捗)	(11月末時点)		
医療機能の強化	医療提供体制の強化	救急車受入台数	8,000台	<ul style="list-style-type: none"> <li>■重症者、受入困難者について極力断らない方針を徹底し、新任医師に対する指導等を実施した。</li> </ul>	5,910台	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>■専門医の不在等で応需できない場合があり、件数が伸び悩んでいるが、入院につながる2次救急患者の受入れを中心に挽回・増加を目指す。</li> <li>また、システムを活用して救急外来のベッド運用状況の可視化を推進する。</li> </ul>
					(6,735台)	(△)	
		脳血管系と心血管系の新規入院患者及び救急外来からの緊急入院患者数	3,000人	<ul style="list-style-type: none"> <li>■主任部長の連携医療機関へ訪問した。</li> <li>■救急患者の積極的に受け入れた。</li> <li>■病診連携セミナーを開催した。</li> </ul>	2,204人	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コロナ禍から続く患者減少から十分に回復できていないため、連携医療機関へのアピールや救急患者の積極的受入れなどにより、挽回・増加を目指す。</li> <li>また、2月末から血管撮影装置を更新したため、カテーテル治療などの増加を目指す。</li> </ul>
					(2,523人)	(△)	
		緊急母体搬送受入件数	150件	<ul style="list-style-type: none"> <li>■総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊婦の受入要請に対し、極力断らない方針を徹底した。</li> </ul>	115件	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■受入要請を断らない方針は徹底できているが、少子化の流れの影響を受けて減少している。これまでの取組を継続する。</li> </ul>
					(125件)	(○)	
		手術支援ロボットによる手術件数	200件	<ul style="list-style-type: none"> <li>■昨年度までは大腸、肺の手術が中心であったが、胃、前立腺、腎臓、子宮などへ対象を更に拡大した。</li> </ul>	163件	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■午前・午後の1日2例の実施に向けて、次年度以降、周辺機器の増設等を検討する。</li> </ul>
			(166件)	(○)			
内視鏡的粘膜炎下層剥離術件数	200件	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コロナ禍以前の状態復帰へ向け連携医療機関などへの訪問活動を実施した。</li> </ul>	201件	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>■これまでの取組を継続する。</li> </ul>		
			(166件)	(◎)			
がんゲノム検査件数	230件	<ul style="list-style-type: none"> <li>■従前の取組(連携医療機関へのアピールなど)に加え、「がんゲノム医療拠点病院」としての準備を実施した。</li> </ul>	125件	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>■7月から「がんゲノム医療拠点病院」としての活動を開始したが、当院でパネル検査が実施可能となったことを十分に浸透できていないため、対外的にアピールし、挽回・増加を目指す。</li> </ul>		
			(191件)	(△)			
その他	入院期間Ⅱ 超え割合	23%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■令和4年度診療報酬改定によりDPCの標準期間が短縮となった疾病について、クリニカルパスの見直しを実施し、それに基づき在院日数を適正化した。</li> </ul>	22.1%	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>■これまでの取組を継続する。</li> </ul>	
							(23%)
経営基盤の強化	経営力の強化	新規入院患者数	17,900人	<ul style="list-style-type: none"> <li>■新型コロナについて、5月から感染症法上の取扱いが変更になったことを踏まえ、混合病床に運用を変更することで、受入数の増加を図った。</li> </ul>	13,413人	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>■新型コロナの影響により、連携先医療機関との関係が希薄化している。</li> <li>規制緩和に伴い、対面方式による地区医師会との連携懇談会を再開し、院長によるトップセールスを行うことで、紹介患者の受入等の増加を図る。</li> </ul>
					(15,027人)	(△)	
増収対策	入院単価	92,800円	<ul style="list-style-type: none"> <li>■在院日数の適正化、処置・手術の増加、各種の加算の積極的算定などを実施してきたが、加算について、これ以上、新規に届出をすることは難しい。</li> </ul>	86,865円	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>■血管撮影装置の更新によって脳・心臓・消化器などの手術を増加させる。</li> <li>■リハビリ・薬剤管理指導・栄養指導などの指導を増加させる。</li> </ul>	
							(92,800円)

# 指標モニタリング【安芸津病院】

モニタリング指標		R5 目標	取組内容 (1月末まで)	結果	自己評価	今後の取組・状況説明	
				(基準進捗)	(11月末時点)		
医療機能の強化	医療提供体制の強化	救急搬送受入件数	420件	<ul style="list-style-type: none"> <li>■カンファレンス等で医師に断らない方針を周知した。</li> <li>■当直・宿直等での受入件数、断り件数・内容を関係者で共有した。</li> </ul>	321件	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>■輪番の当番日以外に、専門医不在などの理由で応需できない例があったため、目標未達となった。</li> <li>■断った事例等について共有を行う。引き続き、毎週カンファレンスにおいて、救急車の受入を断らない事を周知する。</li> </ul>
					(350件)	(△)	
		専門外来受診患者数 (糖尿病、人工関節、骨粗鬆症、フットケア)	1,080人	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ホームページでの専門外来をPR</li> <li>■院内掲示など院内での周知や外来で対象となる患者へ案内を実施した。</li> </ul>	1,211人	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>■これまでの取組を継続する。</li> </ul>
					(900人)	(◎)	
		健(検)診件数	2,790件	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ホームページで健(検)診内容をPRした。</li> <li>■外来でのがん検診等の受診を勧める声かけを行った。</li> </ul>	3,251件	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>■これまでの取組を継続する。</li> </ul>
(2,680件)	(◎)						
訪問看護新規者数	32人	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外来等での新規利用者の掘起こしを依頼した。</li> <li>■在宅医療委員会での電話訪問や退院支援の状況の共有等を行った。</li> </ul>	31人	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■これまでの取組を継続する。</li> </ul>		
			(26人)	(○)			
経営基盤の強化	経営力の強化	新規入院患者数	1,000人	<ul style="list-style-type: none"> <li>■毎週末のカンファレンスで医師・看護師に、現在の病床の空き状況を示して、積極的な新規受入を依頼した。</li> </ul>	828人	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>■これまでの取組を継続する。</li> </ul>
					(833人)	(○)	
	増収対策	地域包括ケア病床稼働率(29床)	98.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■毎朝、看護部に病棟・外来師長が集まり、病棟・外来間の情報交換を行うなど、効率的なベットコントロールを行っている。</li> </ul>	78.7%	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域包括ケア病床の施設基準に定められた看護必要度12%を下回る懸念があったため、看護必要度を維持するため、一般病床から地域包括ケア病床に移行する患者数を制限した。また、リハビリの人員不足により、看護必要度は高いが、リハビリが必要なため転棟できないなどの制限もあり、目標未達となった。</li> <li>■地域包括ケア病床の稼働率を上げるため、レスパイト入院を広く周知する。また、レスパイト入院に関するパンフレットを近隣施設に配付する。</li> </ul>
(98%)					(△)		

# 【参考】月次目標値

## 【広島病院】

重点指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度末
救急車受入台数	611	644	636	707	772	574	631	634	739	787	620	645	8,000台
	1,891			2,053			2,004			2,052			
脳血管系と心血管系の新規入院患者及び救急外来からの緊急入院患者数	270	233	251	249	230	229	269	259	260	273	217	260	3,000人
	754			708			788			750			
緊急母体搬送受入件数	16	12	9	13	19	12	7	8	13	16	13	12	150件
	37			44			28			41			
手術支援ロボットによる手術件数	16	17	17	16	17	17	16	17	17	16	17	17	200件
	50			50			50			50			
内視鏡的粘膜下層剥離術件数	16	17	17	16	17	17	16	17	17	16	17	17	200件
	50			50			50			50			
がんゲノム検査件数	19	19	19	19	19	20	19	19	19	19	19	20	230件
	57			58			57			58			
入院期間Ⅱ超え割合	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0%
	23.0			23.0			23.0			23.0			
新規入院患者数	1,476	1,415	1,431	1,506	1,636	1,407	1,524	1,509	1,480	1,643	1,360	1,513	17,900人
	4,322			4,549			4,513			4,516			
入院単価	92,800	92,800	92,800	92,800	92,800	92,800	92,800	92,800	92,800	92,800	92,800	92,800	92,800円
	92,800			92,800			92,800			92,800			

# 【参考】月次目標値

## 【安芸津病院】

重点指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度末
救急搬送受入件数	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420件
	105			105			105			105			
専門外来受診患者数	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	1,080人
	270			270			270			270			
健（検）診件数	30	110	180	300	300	300	360	400	400	300	80	30	2,790件
	320			900			1,160			410			
訪問看護新規者数	2	3	3	2	3	3	2	3	3	2	3	3	32人
	8			8			8			8			
新規入院患者数	83	83	84	83	83	84	83	83	84	83	83	84	1,000人
	250			250			250			250			
地域包括ケア病床稼働率（29床）	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0%
	98.0			98.0			98.0			98.0			